



こどもによる誤飲・誤食

誤飲・誤食とは…

食べ物ではないもの、特に有害・危険な異物を飲み込んでしまうこと。毒キノコの場合も誤食と認識される。

誤飲事故には 子供の成長・発達段階に応じて変化する行動の特性が影響している、

とされています。特に大人の医薬品の誤飲事故が近年増えています！



1 身近にあるものを手に取り、何でも口へ運ぶ《生後6ヶ月頃から1歳半頃にかけて》

自分の手が届くところのものを手に取り、口に入れてしまう。

- 口に入れることが想定されていない塗り薬でも口に入れてしまう。
- 包装のまま口に入れて噛んだり、袋を噛んで破いたり、金属のチューブでも噛んだりするなど医薬品のみならず外袋や容器まで誤飲する傾向がある。



2 周囲への興味や関心が高まり大人のまねをする《1歳児から2歳児にかけて》

周囲への関心が高まる時期であり、大人のまねで誤飲をしてしまうと考えられる。

- 足台になるものに乗って高い場所の医薬品でも取る。
- 大人用の医薬品を誤飲する。
- 包装容器を上手に開けて取り出して飲み込む。

3 興味を持って好んで手に取る 《おおむね2歳すぎ》

手足や脳がより発達し興味を持ったものに対し“ほしいと思って”道具を使うなどして手に入れる。

- 味のついた水薬等を多量に誤飲する。
- チュアブル（口の中で溶けて飲みやすくしてある錠剤、水なしで飲めるようになっているタイプ）・トローチ等の医薬品をお菓子と間違えて好んで多量に誤飲する。



子供による医薬品の誤飲事故はほとんどが自宅で発生しています。医薬品だけでなく各種洗剤や整髪剤等も子供の目や手の届かない場所に保管するよう徹底しましょう。

消毒用の薬剤を ペットボトルや詰め替え用の容器に取り分けたりする場合がありますかと思いますが、特にこどもの手の届くところ・目に付くところには出しっぱなしにしないようにこころがけましょう!!



お知らせ 令和2年度(4月からの)MRワクチンII期対象者

平成26年4月2日～平成27年4月1日生まれの方です

(就学前の1年間 = 年長さんの間に接種しましょう)

